

「空間」の持つ力を まちづくりりに 活かしたい

シリーズ 今を輝く人
人の和・まちの輪

現在の取手駅東口の風景を空から眺めると、イトヨーカドーのあった所は、ぽっかりと大きな穴が空き、その隣には高層ビルの建設が始まっている。利根川のほうに目を向けると、長い歴史を持つ商店が軒を並べている。変わらぬに残された場所、変わっていく場所。その空間にはどんな人の思いがあるのだろうか。



(株)長谷商事代表取締役
長谷 豊さん

<http://www.nagatanibil.net/>

家業を継いで

大学卒業後はサラリーマンを経て、1994年に家業を継ぎ、貸しビル、駐車場の責任者となる。長谷さんが33歳の時に先代の社長が急逝。代表取締役として会社を経営することに。「急なことで、やっていたのだろうかと思う事もありましたが、そんな時に先代が「貸しビル業、貸し駐車場業とはサービス業であり、元気な挨拶で始まり、常に快適な場所、空間を提供していくことである」と言い続けていたことを思い出しました。その言葉を受け継いでビルを清潔に保つこと、おもてなしの心で車を預かること、それが第一歩だった。ビルや会議室を貸すだけではなく、駐車場に車を停めるだけではなく、そこに人がいなければいけない。「ビルを清掃することや有人の駐車場にこだわるのは、空間は人が作るものという思いからです」。

人がいて街がある

人が行き来する街があり、その街を芸術で彩ることが出来たら。「今の取手市は、高齢者も増え、高齢者の方がまちづくりを支えていると言えらるかもしれません。これからは、もつと若い方もみんな考え、みんな街を盛り上げようと思ってくれればと思います。一人では何もできない。けれど、一人が始めなければ広がりもない。有志と共にアートコンシェルジュを立ち上げたのも、私自身、立ち止まっても仕方がないという思いからです」。

美術と街を結ぶ

取手市は東京芸大があり「アートのまち取手」としてまちづくりを展開している。長谷さんも毎年行われる取手アートプロジェクトに協賛している。2009年4月にはナガタニビル1階に「とりでアートコンシェルジュ」がオープンし、長谷さんは発起人として委員長を務めている。同所はインフォメーションセンターとギャラリーの2つの側面を持ち、取手の街にアート情報を知らせる常設の施設。いつでも見てももらえるようにと通りから眺められるウィンドウギャラリーになっている。

また「とりでアートコンシェルジュ」では、

アーティストの作品を販売することも検討されており「アーティストとして食べていく人を、育てていくことも必要だ」と思う。アーティストが自立していくための支援やシステムづくりをしていきたい」と長谷さん。依存関係でのネットワークではなく、お互いに自立した関係があり、上手に「空間」を利用することで街が活性化して、そこに関わってくる人が、最後には「楽」になっていく。そんな循環が起ればと語る。「私に出来

昭和40年代の取手市。木造の取手駅から東口に出ると、商店街には映画館や銭湯があり、肉屋、魚屋、八百屋と商店が立ち並んでいた。旧道にはボウリング場があり、長禅寺下の大師通り商店会では、毎月21日に開かれる縁日に屋台が並び、商店の売り出しに人々が集まった。

昭和40年代後半から50年代にかけて、東京のベッドタウンとして開発が進み、昔ながらの風景の中は、少しずつ変化を見せていく。

子供時代

「私が幼稚園の頃に、イトヨーカドーが出来ました」。取手市取手2丁目。今ではナガタニビルになっている場所に生家があり、その目の前に5階建てのショッピングビルが建った。商店街を遊び場にしてきた長谷少年にとっては「大きな遊び場が増えたという感じでしたね(笑)」。近隣から人が集まり、生家の前の道は車で渋滞が起ったそうである。「個人商店が並んでいた取手市にランドマークとしてヨーカドーが出来て、今までは違う人の流れが出来ていったのでしょね」と長谷さん。



昭和30年代に撮影された取手駅

更に開発が進んでいく様子を見ながら、街が大きく発展していくことを肌で感じ「ワクワクしましたね」と語る。

取手市は東京芸大があり「アートのまち取手」としてまちづくりを展開している。長谷さんも毎年行われる取手アートプロジェクトに協賛している。2009年4月にはナガタニビル1階に「とりでアートコンシェルジュ」がオープンし、長谷さんは発起人として委員長を務めている。同所はインフォメーションセンターとギャラリーの2つの側面を持ち、取手の街にアート情報を知らせる常設の施設。いつでも見てももらえるようにと通りから眺められるウィンドウギャラリーになっている。

「東京芸大とコラボ出来ないかという気持ちは前からあり、以前はギャラリーとして自社ビルを利用したことも。私の仕事は空間をプロデュースする仕事なんです。取手に



Profile プロフィール

長谷 豊 Yutaka Nagatani

1967年 取手市生まれ。
大学卒業後、サラリーマンを経て1994年に家業を継ぎ、貸しビル、駐車場、会議室などの業務に携わる。
1999年代表取締役役に就任。地域活性化を願い、ビルの空きスペースをギャラリーとして利用するなどの取り組みをする。
2009年4月にはナガタニビルにて「とりでアートコンシェルジュ」がスタート。

Information インフォメーション とりでアートコンシェルジュ

取手市取手2-10-15 毎週金・土・日オープン 10時～17時
5月には芸大1年生のコンテストを予定。一般投票を受け付ける。
詳しくはWebにて。<http://www.toride-art-concierge.com/>

取手駅東口「とりでアートコンシェルジュ」は誰もが自由に入れて、日常の中でアートを楽しめる空間。買い物帰りや散歩のついでに気軽に訪ねてみては。

ナガタニビル1階にオープンした「とりでアートコンシェルジュ」は、知り合いや友人から作品が見られるようになっている。

